

施工説明書

1. フローリング・パネリング 選定における注意事項

【商品選定の際、確認しておきたいこと】

<使用環境の確認>

下記のような環境では床下などの湿度が著しく上昇する恐れがあります。フローリング材やパネリング材の異常な膨張による不具合が生じる可能性が高くなるため、施工の際には十分な配慮と対策を施してください。条件によっては、無垢木材の使用可否を再検討してください。

- 低湿地や沼地、田んぼに囲まれた場所や海辺。もともと湿気が多い土壌の地域。
- 森林の沢地や、地下水が豊富な場所。
- 床下の換気口が小さい現場。
- 地下室など湿度が高く湿気がこもりやすい場所またはコンクリートが完全に乾燥していない場所。
- リフォームなどにより床下と地面が300mm以下に近接する場所。
また、現場内での湿度のばらつきの確認も重要です。温湿度を容易に測定できるデジタル温湿度計や木材の含水率を測る含水率計の使用が有効です。

<床暖房について>

床暖房を入れる場合には、床暖房対応または準対応フローリングを必ずご使用ください。なお、床暖房対応または準対応フローリングをご使用いただけなかった場合の不具合については対応できません。

<直張りについて>

直張りをご検討の場合には、直張り対応フローリング(カルプ貼り)を必ずご使用ください。なお、直張り対応フローリングをご使用いただけなかった場合の不具合については対応できません。

<乱尺フローリングについて>

乱尺フローリングを選択された場合、根太工法でのご使用はできません。24mm以上の構造用合板を使用する根太レス工法を用いてください。

<空調設備について>

エアコンをはじめとする冷暖房機器や換気システム、全館空調システムなどの、吸排気の流れが床面に直接当たる場合、過度の乾燥によりフローリング材の含水率に著しく影響し、材の収縮や割れの原因となります。そのため、風が無垢木材を使用した床、壁、天井面の一定箇所に継続的に当たらないようにしてください。フローリングを選択の際は、建築設計士や有識者の方にご相談ください。

2. フローリングの施工方法について

【商品の取り扱いについて】

<現場での保管方法>

直射日光や雨が当たる場所、湿度が高い場所での商品の保管は避けてください。また、保管する際は、反りや曲がり、エンド部分の実の損傷の原因となりますので、立て掛けず平置きにて保管してください。

<水濡れに注意>

著しい水分の吸収は木材の膨張の原因になります。水濡れの可能性がある環境への施工は控えてください。配管まわりや開口部の結露にもご注意ください。

【施工前の確認及び実施事項】

<商品の確認>

品質には万全を期しておりますが、万が一不良品や傷、色、木柄など不明な点がございましたら、必ず施工前にご相談ください。施工後のお取替えには応じられません。

<床暖房について>

床暖房対応または準対応フローリング以外の商品を床暖房に使用した場合、過度の隙間やひび割れが生じる恐れがあります。床暖房を使用する場合は、事前に床暖房対応商品であるかご確認ください。

<施工のタイミング>

壁、サッシの施工が終わり、風雨など外部からの影響を受けない状態になってから、フローリングの施工を行ってください。施工に際しては、下地の水漏れが無いこと、含水率が12%以下であることを、あらかじめ必ず確認してください。なお、現場によって手順が異なるケースもあるため、フローリングの施工に支障が出ない方法をご判断ください。

【施工に於いての禁止事項】

- 釘打ちの際フィニッシュネイルの使用は厳禁です。
- エンドマッチ部分に釘打ちをしないでください。
- 酢酸ビニルエマルジョン系の接着剤は使用しないでください。
- 接着剤は実部分に入らないようにしてください。
- 下地に12mm厚以上の1類、または特類の構造用合板を使用してください。MDF合板を下地に使用しないでください。
- 壁際のクリアランスは必ず5mm以上確保してください。
- 床面に直接養生テープを貼らないでください。
- フローリングは、水拭き厳禁です。拭き掃除が必要な場合は、Arbor水性クリーナーワックスをご使用ください。
- RC工法の場合、コンクリートスラブやモルタルの含水率が4%以上の場合はフローリングの施工をしないでください。
- 接着剤は、フローリングの裏面に塗布してください。床下地への塗布は禁止です。
- 遮音マットの上への直張りはしないでください。
- 二重床への施工の場合、パーティクルボードへのフローリングの直張りは禁止です。必ず12mm以上の構造用合板を下張りした上で施工してください。

【推奨施工用具】

<接着剤の種類>

(1) 無垢フローリング、挽板フローリング、床暖房対応フローリング、寄木張りフローリング(カルブ貼りなし:釘打ちができる下地の場合)

1液型ウレタン樹脂系の木質床用(コニシ社製ボンドKU928C-X等)を推奨いたします。

※この接着剤は、木材の膨張収縮によるフローリングの動きに対応し、その動力を接着剤自体が吸収する“弾性”を有した接着剤です。水分との化学反応により硬化するタイプの接着剤のため、硬化後の体積収縮がなく、接着剤が原因の不快感な床鳴りを防止する効果があります。

※木工用ボンド(酢酸ビニルエマルジョン系)は厳禁です。水性のため床材の膨張による反りや割れ、床鳴りの原因となります。

(2) 寄木直張りフローリング(カルブ貼り:釘打ちができない下地の場合)

2液型エポキシ樹脂系(コニシ社製ボンドE350R等)を推奨いたします。

※この接着剤は、貼り付けた直後から接着力を発揮するため、釘を使用しない直張りフローリングの施工に適しています。

<釘の種類>

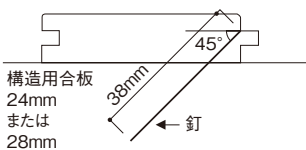
使用する釘(床材厚15mmの場合)は、根太レス工法の場合、フロアステーブル(マックスステーブル438MA)または38mmのスクリーネイルを推奨します。ステーブルやスクリーネイルの先端が合板を突き抜けないように施工してください。根太張りの場合は、フロアステーブル(マックスステーブル445MA)または45mmのスクリーネイルを推奨します。ステーブルやスクリーネイルは根太に届く長さのものを使用してください。

※下地やフローリング材の厚みによって、釘の長さの調整が必要になります。下表をご参照ください。

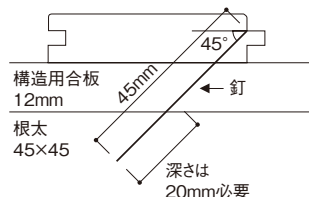
※WAKAI社製のフロア釘を推奨いたします。

床材厚	釘の長さ	
	根太レス工法の場合	根太張りの場合
18・20mm	38mm	50mm
30mm	50mm	65mm

根太レス工法の場合



根太張りの場合



※フロアステーブルの場合、基本的にフローリング材に下穴をあける必要がなく空気圧の調整により施工を行えます。また、スクリーネイルの場合、下穴が必要になりますが、スクリーネイルの形状により、高い保持力を得ることができます。釘打ちの間隔は303mm以下としてください。

※フィニッシュネイルの使用は厳禁です。

【施工のポイント及び手順】

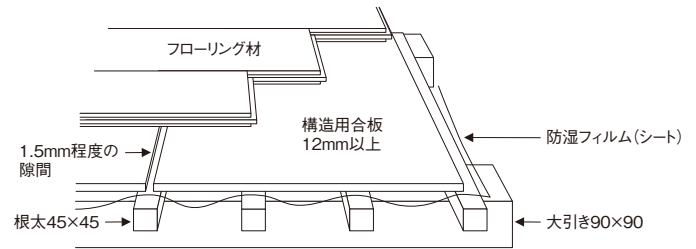
床暖房を入れる場合と直張りをする場合、寄木張りフローリングを張る場合については、通常の施工のポイント以外にも注意すべき事項や異なる点がございませぬ。該当する場合には【床暖房を入れる場合の注意点】【直張りをする場合の注意点】【寄木張りフローリングの張り方】も含めご確認ください。

<下地の確認及び湿気対策>

下地は必ず乾燥した材を使用し、下張り材の段差が1mm以下であることをご確認ください。段差が床鳴りの原因になる可能性がありますのでご注意ください。なお、スギの荒床下地を使用する場合は、あらかじめ含水率が12%以下であることを確認の上、根太に対して斜め45°に張り込んでください。

(1) 根太張りの場合

- 厚さ12mm以上の構造用合板の下張りが必要です。根太と合板の間に0.1mm以上のポリエチレン防湿フィルム(シート)を敷き込んでください。
- 下地合板の張り込みは1.5mm程度の隙間を空けて張り込んでください(下地合板の膨張による床面の突き上げを避けるため)。



(2) 二重床の場合

- フローリングを施工する場合は、ベースパネル(パーティクルボード)に直交するように12mm以上の構造用合板を必ず下張りしてください。合板の上から釘打ちの際、ベースパネルの目地に釘打ちすると床鳴りの原因になりますので、目地は避けて打つようにしてください。
- RC構造の場合は、必ず0.1mm以上のポリエチレン防湿フィルム(シート)を敷き込み防湿対策を施してください。コンクリートスラブからの湿気がフローリングの膨張の原因となります。

(3) 根太フォーム及びスタイロフォーム下地の場合

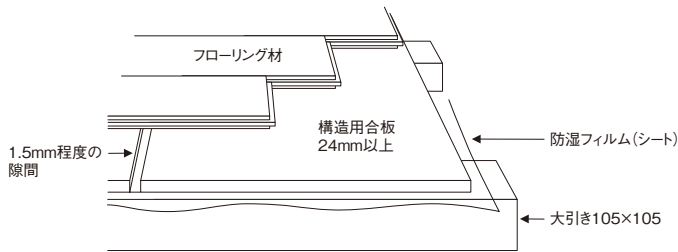
厚さ12mm以上の構造用合板の下張りが必要です。根太フォーム及びスタイロフォームへの直張りは禁止です。

(4) 遮音マットを使用する場合

遮音マットの使用により、床鳴りを引き起こす可能性があります。特に、遮音マットへの無垢フローリングの直張りは禁止です。遮音マットを使用する場合は、遮音マットの上に12mm以上の構造用合板を下張りし、接着剤とスクリーネイルを併用し施工するなど、床鳴りの軽減のための措置を講じてください。

(5) 根太レス工法の場合

- 根太レス工法の場合の大引きは、105mm角以上のブレナー掛けされた乾燥材を使用し、大引きの間隔は1000mm又は910mm以内としてください。
- 大引きと合板の間に0.1mm以上のポリエチレン防湿フィルム(シート)を敷き込んでください。
- 下地には、24mm以上の構造用合板を使用し、構造用合板とフローリングが直交するように張り込んでください。その際、必ず構造用合板が含水率12%以下に乾燥していることを確認してから施工してください。
- 構造用合板の水濡れは厳禁です。水濡れした場合は、含水率が12%以下になるまで施工しないでください。下地の含水率が高いまま施工するとフローリング材にカビ・突き上げ・隙間などが発生する原因となります。
- 下地合板の張り込みは1.5mm程度の隙間を空けて張り込んでください(下地合板の膨張による床面の突き上げを避けるため)。



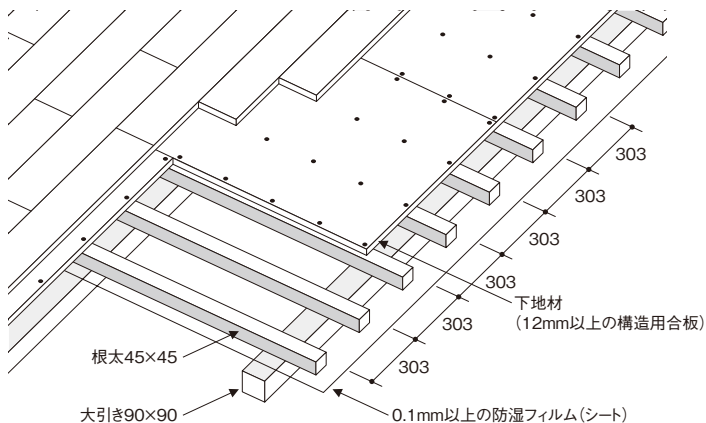
<フローリングの張り込み>

(1) 仮並べ

天然木は色調や木目が単一でないため、仮並べを行ってください。他の部分と際立って調和しないピースを目立たない場所に配置するなどの配慮は、仕上がりのイメージを向上させます。また、事前の仮並べは、端材の有効活用にもつながります。

(2) 張り込み

- フローリングの施工には、接着剤とフローステープルまたはスクリーネイルの併用が基本です。
- フローリングは構造用合板と根太に直交するように張り込んでください(構造用合板以外の無垢木材(スギや荒床など)の下地を使用する場合は、下地自体が膨張収縮する可能性が高いため、フローリングと下地を同じ方向に張るとフローリング材に不具合が生じる可能性があります。この場合に限り、下地材の張り込みは、根太に対して斜め45°に行ってください)。

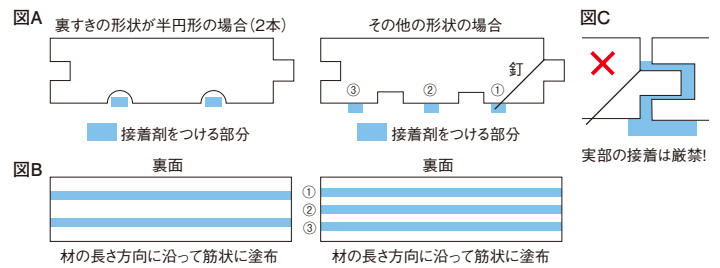


(3) 接着剤の塗布

裏すきの形状が半円形の場合は、その溝に沿って、裏すきが2本であれば2箇所、3本であれば3箇所に接着剤を直径6mm程度のひも状にして塗布してください。その他の形状の場合には、①釘の通過面、②材の中心、③雌実下やや内側の3箇所に筋状に塗布してください(図A・B参照)。接着剤の使用目安は、コニシ社製ボンドKU928C-Xの場合、1.65㎡当たり750mlです。

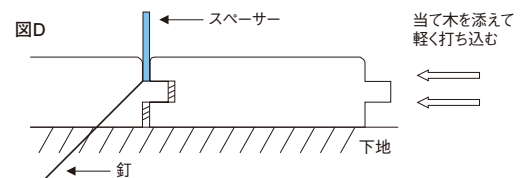
注)実部分への接着剤の塗布は、床面全体が動き、局所的に大きな隙間を引き起こすため厳禁です(図C参照)。

注)接着剤は床下地ではなく、フローリングの裏面に塗布してください。
※スギ、ヒノキなどの針葉樹は、床鳴りが発生し易い樹種です。フローリング材裏面の隅までしっかりと接着剤をつけることで床鳴りを軽減できます。但し、実部分に接着剤が入り込まないよう、注意が必要です(図C参照)。



(4) 釘の打ち込み

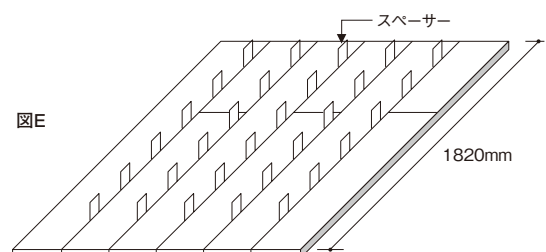
雄実の付け根から材の中央方向へ向かって斜め45°に打ち込んでください。下地を通して根太に打つのが基本です。樹種ごとに材の堅さが異なりますので、フローステープルを使用する際は、エア圧の調整を行ってから施工してください。また、スクリーネイルを使用する場合は、必ず下穴をあけてください。その際、スクリーネイルのヘッド部分がはまるための穴(皿もみ)をあけてください。
※エンドマッチ部分への釘打ちはしないでください。



(5) 実の差し込み

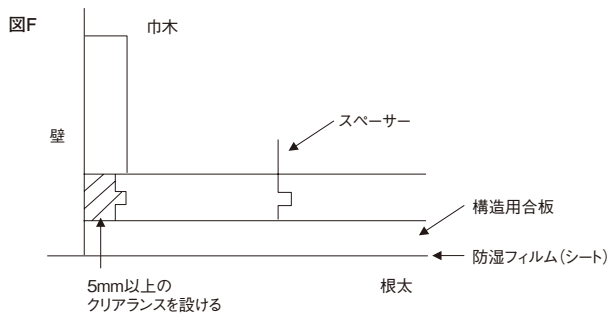
※挽板フローリング及び寄木張りフローリングは、スペーサーの使用は不要です。
※無垢木材の特性である膨張収縮の観点から、基本的には通年でスペーサーを利用した施工を行ってください。

商品付属のスペーサーを使用してください。300~450mm間隔でスペーサーを入れた後、当て木の上からフローリング材を軽く叩いて実を差し込んでください(図D・E参照)。実の損傷やスペーサーの抜き取りが困難になる恐れがありますので、強く叩き込まないようにします。なお、エンドマッチ部のスペーサーは不要です。スペーサーはすぐに抜き取らず、接着剤の乾燥後(約12時間後)に抜き取ってください。



(6) 壁・敷居・框などへのフローリングの納め方

- 壁面には密着させず、巾木で隠れる寸法内で5mm以上のクリアランスを設けてください(図F参照)。フローリング材の膨張による壁や柱への押し込みやきしみを防ぎます。
- 敷居や框等と平行に接する部分にもスペーサーを用い、0.5mm程度のクリアランスを必ず設けてください。両端が敷居などの場合は、それ以上の十分な逃げの確保が必要です。
- 掃き出しサッシまたは浴室サッシとの接合部は、結露などによる水濡れの可能性が高いため、木端・木口にタッチアップ用の塗料を塗り、しっかりと防水処理をしてください。



(7) その他

- 最後の一行は、1週間程度期間をおいてからの施工が理想的です。施工後のフローリング材の微妙な動きを調整できます。
- 空調設備について
エアコンをはじめとする冷暖房機器や換気システムなどの、吸排気の流れが床面に直接当たる場合、過度の乾燥がフローリング材の含水率に著しく影響し、材の収縮や割れの原因となります。そのため、風が直接床面に当たらないようにしてください。

【床暖房を入れる場合の注意点】

例) 小根太付き温水マットへの施工の場合

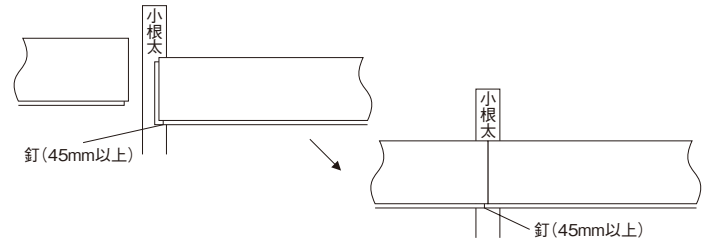
注) 床暖房対応または準対応フローリングを必ずご使用ください。

<下地の確認>

- 303mmのピッチで釘を打てない床暖房システムには使用できません。
- 床下地は小根太入り温水マットの下に、床として十分な強度を持つように12mm以上の構造用合板を使用し、段差が出ないように仕上げてください。
- 温水マット周辺部のダミー合板は、温水マットと同厚である12mm構造用合板を使用し、段差が無いように仕上げてください。
- 施工下地(温水マット、ダミー合板)は、掃除機などを用いて清掃してください。特に温水マット表面のゴミや油などは十分に取り除いてください。

<フローリングの張り込み>

- 温水マットの小根太とフローリングが直交するように並べてください。
- 下図を参考に温水マットの小根太の中央にフローリングの木口(短辺部)の接続箇所が乗るように割り付けてください。
- 温水マットとダミー合板の境目には、フローリングのつなぎ目が重ならないように割り付けてください。



<接着剤の塗布>

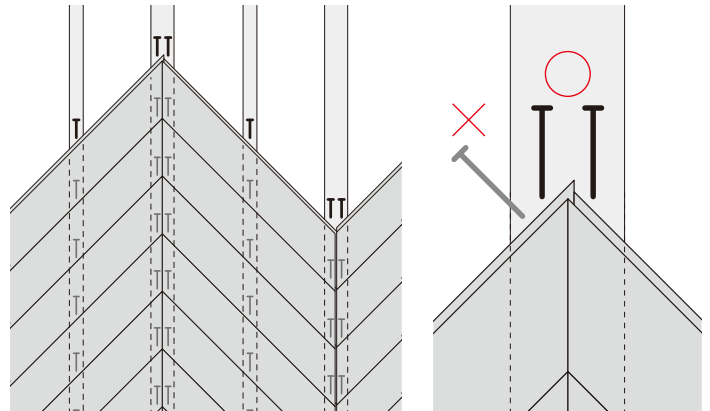
接着剤は、小根太の上面及び小根太の延長上の小根太のないマット部分に塗布してください。またダミー合板部分については200~300mmピッチで塗布してください(フローリング裏面、温水マット全面には塗布しないでください)。

注) 接着剤は点付けでなく、小根太の幅より広くフローリングの両端に接着剤が付くようにしてください。

<釘の打ち込み>

- 温水マットの小根太部分の全てに、必ず釘打ちをしてください。なお、小根太以外には釘を打たないでください。
- 釘打ちは、温水マットの小根太と重なる部分及びダミー合板部分にのみ行ってください。
- 部屋の端部(ダミー合板部分)でスクリーネイルを打てない箇所は、針釘(隠し釘)で固定し、フローリング材とダミー合板とが接着剤でしっかり固定された後(約2日後)、針釘(隠し釘)を抜いてください。
- 床暖房を使用する状況下で「ヨーロッパオーク 挽板フレンチヘリンボーンフローリング」を施行する際は、下図のように、必ず小根太の長手方向に沿って釘を打ち込んでください。フレンチヘリンボーンフローリングの短手方向に沿って釘打ちを行うと、釘の先端が小根太の外側にはみ出し、床暖房システムを傷つけてしまう恐れがあります。この場合の釘は、スクリーネイルをご使用ください(フィニッシュネイル、フロアステーブルは禁止です)。

※上記の施工方法は一例です。それぞれの床暖房メーカーの施工要領に従って施工してください。



【直張りをする場合の注意点】

注)直張り対応フローリング(カルプ貼り)を必ずご使用ください。

<下地の確認>

モルタルの含水率が4%以下に乾燥しているかを必ず確認をしてください。乾燥が不十分な場合は、接着不良や材の反りの原因となりますので、施工をしないでください。

<不陸調整>

不陸調整を必ず行ってください。下地に合板を使用する場合は、不陸が無いよう合板とモルタルを接着剤(コニシ社製E350R推奨)で櫛目状に全面塗布し、コンクリート釘を併用して、しっかりと固定してください。合板は12mm以上の構造用合板を使用してください。

【ヘリンボーン/フレンチヘリンボーン張りの張り方】

- (1)空間に対して、どの向きで張るか決めてください。
- (2)フローリングの割付に基づいて張り込みの基準点を決め、基準点を中心に直交する2本の線(A線・B線)を引き、さらにそれらの線から45度の角度でC線とD線を引いてください(この際、基準点上のA線に沿って山なりに施工されると理解してください)。
- (3)基準線となるA・B・C・D線に対して、フローリングの長さに合わせてピッチで平行な線を複数引いてください(A・B・C・D各線のピッチについては、下記を参照)。

ヘリンボーンの場合:

A・B線は、212mm(フローリングの長さ300mmの場合)、322.5mm(フローリングの長さ456mmの場合)、346.5mm(フローリングの長さ490mmの場合)のいずれかのピッチ。C・D線は、フローリングの長さ(300mm、456mm、490mmのいずれか)のピッチ。

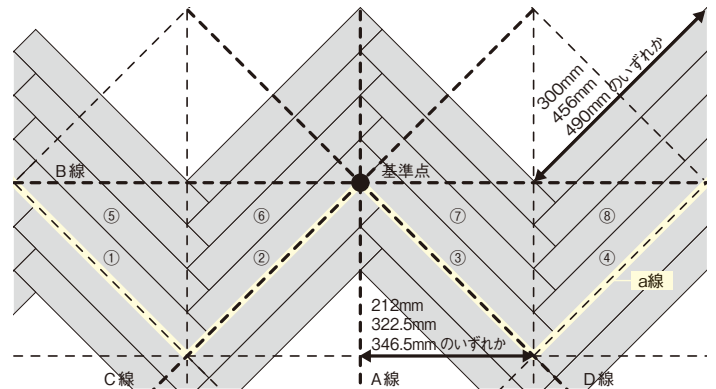
フレンチヘリンボーンの場合:

A・B線は、382mm(フローリングの長さ540mmの場合)のピッチ。C・D線は、フローリングの長さ(540mm)のピッチ。

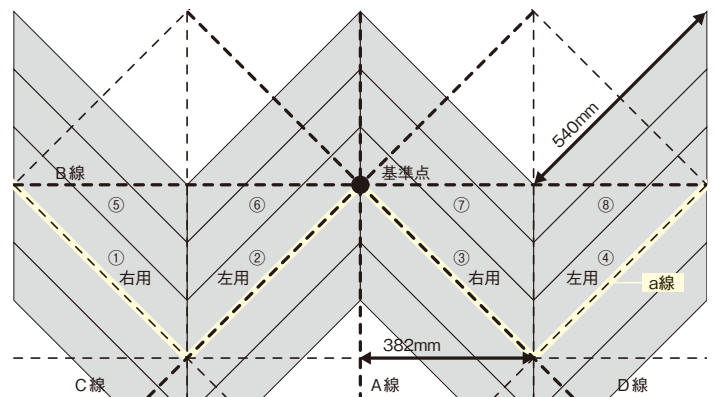
- (4)図のように①・②・③の順番で張りはじめ、基準線を目安に施工してください。無垢木材は、含水率の変化にともない膨張収縮するため、張り込みの際、基準線に対して多少のズレが生じる場合があります。基準線はあくまでも目安として施工を行ってください。

- 接着剤と釘を併用してください(スペーサーは不要です)。
- 右上図のように、上下2方向に張り進めていく場合には、双方の張り始めのピースの接合部(図a線)は、雌実同士の突き付けとなるため、「ヤトイ実」(4mm×8mm)をご用意ください。

ヘリンボーンの場合



フレンチヘリンボーンの場合



フレンチヘリンボーンは片木口雄実、反対側の木口雌実で右用と左用があります。右用と左用を交互に張り並べて施工してください。

3. フローリングの養生について

<表面クリーニング>

養生の前には施工面をきれいに掃除し、細かな塵やほこり、粉などの汚れが無い状態にしてください。床材の表面に細かな傷ができるのを防ぎます。また、オイルやワックスなどの浸透性塗料塗装品の場合、ボードの粉の付着、日焼け、毛羽立ち、養生テープの跡など問題が生じる可能性がありますので、右上図の<養生の方法>に従ってしっかりと行ってください。

<表面保護>

張り上げ後は、表面保護のため養生マットの上に養生ボードを重ね張りし、施工面全面を覆い隠してください。露出している箇所があった場合、日焼けによる変色の原因となりますので十分ご注意ください。

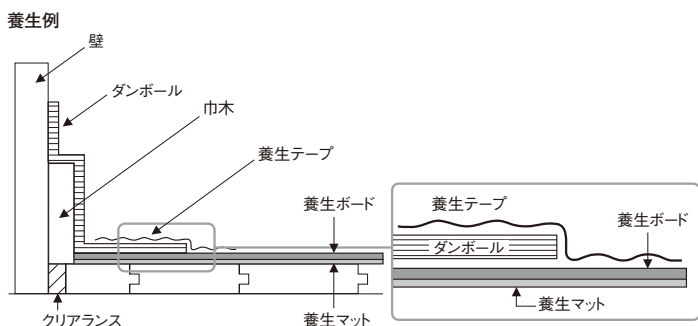
<養生テープの使用方法>

塗装の種類に関わらず、養生テープをフローリングに直接貼らないでください。特に、オイルやワックスなど浸透性塗料での塗装の場合、養生テープの粘着剤によって塗装がはがれたり、粘着剤が付着し汚れや変色の原因となります。

<養生の方法>

注)養生マット及び養生ボードの再利用はしないでください。

養生は床の上に養生マットを敷き詰め、その上に養生ボードを設置してください。下図を参考に養生テープがフローリングに直接触れないようにしてください。養生テープをやむを得ず貼る場合は、粘着力の弱いものを使用し、できるだけ短期間ではがしてください。また、はがす際には、勢いをつけず、ゆっくりとはがしてください。なお、浸透性塗料で仕上げたフローリングについては、必ず跡が付きまので、その箇所をサンディングして、再塗装を施してください。



4. お引渡し前の クリーニング方法について

<クリーニング方法>

塗装の種類によって、クリーニング方法が異なります。必ず施された塗装をご確認の上、行ってください。

	浸透性塗料塗装品[1]	浸透性塗料塗装品[2]	コーティング系塗料塗装品
塗装の種類	<ul style="list-style-type: none"> ● Arbor植物オイル ● Arbor蜜蝋樹脂ワックス ● Arbor針葉樹白木用オイルワックス ● Arborドライワックス ● ベーシックオイル 	<ul style="list-style-type: none"> ● Arborガラスフィニッシュ 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウレタン塗装
水拭き	水拭き厳禁	水拭き可(固く絞った雑巾)	
汚れ落とし	Arbor水性クリーナーワックスを使用 (着色の浸透性塗料には不可)	Arbor水性クリーナーワックスを使用	
最終仕上げ	基本的には、塵や汚れを完全に取除いた後、同一のオイルまたはワックスの上塗りが理想です。なお、ベーシックオイル塗装品の場合は、Arbor植物オイルをご利用ください。	Arbor水性クリーナーワックスにて汚れが除去できれば完了です。市販のツヤ出しワックスを塗りますと、塗装の風合いが変わってしまいますので、お勧めできません。 ※Arborガラスフィニッシュには市販のワックスは使用しないでください。	

※詳しくは、別紙「メンテナンスについて」をご参照ください。

<ワックスの使用についての注意事項>

- 市販の水性ワックスを使ったモップ掛けは、木材が膨張するなど大きなトラブルの原因になります。汚れ落としには、弊社推奨のArbor水性クリーナーワックスを水で10倍に希釈し、きれいな雑巾に浸して固く絞って拭き掃除をしてください。
- ワックスは、直接フローリングにたらしさないでください。フローリングの隙間に入り込み、木材の膨張や変色の原因になります。
- 浸透性塗料塗装品の場合、市販の水性ワックスまたは樹脂系油脂ワックスは使用しないでください。フローリング材の膨張、毛羽立ち、塗装はがれ、白濁の原因となります。

5. お引渡し後の注意事項について

- ホットカーペットの使用は厳禁です。フローリングの収縮や割れの原因となります。
- 床暖房を施したフローリングの上には、カーペットや脚の付いていない家具など、放熱の妨げとなるものを置かないでください。熱がこもり異常な高温になることで、フローリング材に不具合が生じる恐れがあります。
- 空調設備の送風がフローリングに直接当たらないようにしてください。隙間や割れの原因となります。
- 水拭きは避けてください。特にタンニンの多い樹種は、水拭きにより木材内部のタンニンが溶脱し、変色を起こすことがあります。
- カーペット、マット、ラグをご使用になる場合は、裏面が天然繊維のものをお選びください。

6. パネリングの施工方法について (内装用壁・天井材)

【商品の取り扱いについて】

<現場での保管方法>

直射日光や雨が当たる場所、湿度が高い場所での商品の保管は避けてください。また、保管する際は、反りや曲がりの原因となりますので、立て掛けないでください。

<水濡れに注意>

著しい水分の吸収は木材の膨張の原因になります。水濡れの可能性がある場所や、湿気の多い場所への施工は控えてください。配管まわりや開口部の結露にもご注意ください。

【施工前の確認及び実施事項】

<商品の確認>

品質には万全を期しておりますが、万が一不良品や傷、色、木柄など不明な点がございましたら、必ず施工前にご相談ください。施工後のお取替えには応じられません。

<施工のタイミング>

パネリング施工の前に、風雨など外部からの影響を受けない状態になってからパネリングの施工を行ってください。建築中の雨漏りには特に注意が必要です。

<壁・天井と接する場合>

パネリングが塗り壁と接する場合、塗り壁に使用されるアルカリ性の塗剤、もしくは水分と反応し、塗り壁が黒色に変色する恐れがあります。クロスの場合でも、パネリングの樹脂等により、クロスが変色する可能性があります。該当箇所には見切り材を使用してください。やむを得ず、見切り材を使用せずに施工する際は、パネリングの壁・天井に接する箇所にシーラー剤を塗布する必要があります。

【推奨施工用具】

<接着剤の種類>

1液型ウレタン樹脂系の木質床用(コニシ社製ボンドKU928C-X等)をご利用ください。

※この接着剤は、木材の膨張収縮によるパネリングの動きに対応し、その動力を接着剤自体が吸収する“弾性”を有した接着剤です。

※木工用ボンド(酢酸ビニルエマルジョン系)は厳禁です。水性のためパネリングの膨張による反りや割れなどの原因となります。

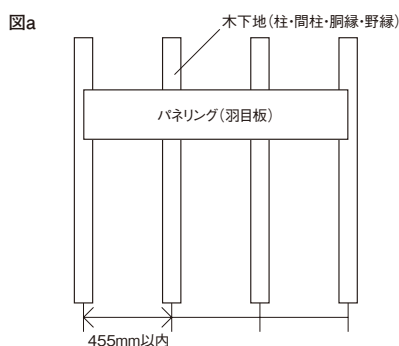
【施工のポイント及び手順】

<下地の施工>

パネリングを天井部や斜壁面に取り付ける場合は、下地にあたる桟木を釘止めし、落下しないよう、各部をしっかり連結してください。また施工後、壁面にカーテンレール・フック等を取り付ける場合は、下地がある場所を確認の上、取り付けたいものが落下しないようにしてください。

(1)木下地の場合(柱・間柱・胴縁・野縁の上に直接施工する場合)(図a参照)

- 木下地は、乾燥材を使用してください。
- 施工面のレベル出しを行ってください。
- 木下地の間隔は、455mm以内で、製品の継ぎ目の下には必ず木下地がくるように割り付けてください。

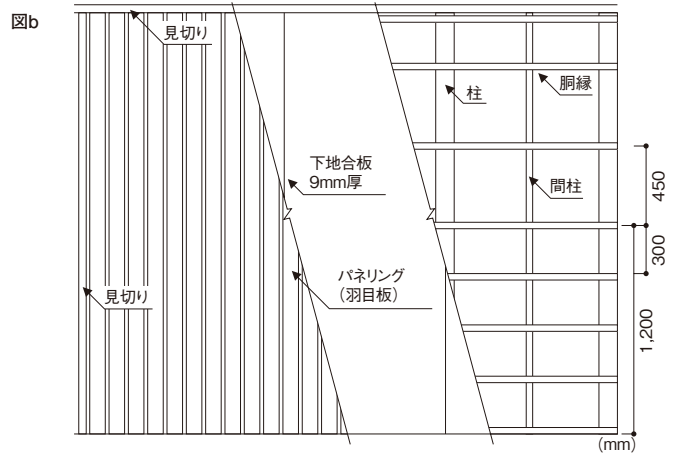


(2)木質ボード(合板)下地の場合(図b参照)

- 木質ボードにはビス保持力が十分にあるものを使用してください。

(3)石膏ボード下地の場合(図b参照)

- 石膏ボード上に施工する場合は、石膏ボードの下に必ず胴縁・野縁などパネリングを確実に固定できる下地が必要です。製品の継ぎ目が胴縁・野縁の上にくるように割り付けてください。
- 石膏ボードの継ぎ目と製品の継ぎ目は重ならないようにしてください。



<パネリングの張り込み>

(1)仮並べ

- 天然木は色調や木目が単一でないため、仮並べを行ってください。全体で見るときに色柄のバランスが良くなるよう配置してください。他の部分と際立って調和しないピースを目立たない場所に配置するなどの配慮は、仕上がりのイメージを向上させます。
- 部屋の形状及び張り方向のデザインに応じて隅の納まりを考慮し、極端な小巾材が出ないように割り付けを行ってください。
- 木口部分をつなぐ際、微妙な巾違いが見られるケースがあります。仮並べをして木口部分の巾合わせを行ってください。

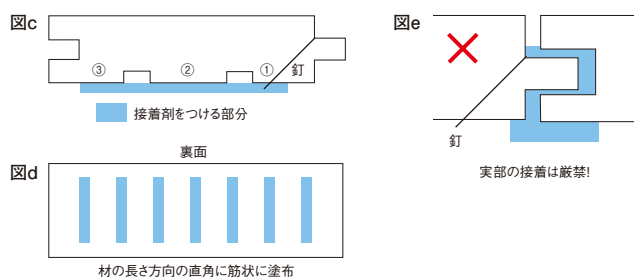
(2)張り込み

- パネリングの施工には、必ず接着剤と釘(ステーブルまたはスクリューネール)を併用してください。
- パネリングの巾方向の膨張を和らげるために、下記の方法をお勧めします。
 - ①ゆるめに張り込む。
 - ②パネリングの雄実部分に、緩衝材(ゴム状)を貼り付けクッション機能を持たせる。
 - ③スペーサーを使い0.5mm程度の隙間を設ける(本実加工の商品)。

(3) 接着剤の塗布

- 接着剤は、下地のボードに塗布せず、パネリング一枚ずつに塗るようにしてください(一度に全ての板に塗ってからの施工は避けてください)。
- ①釘の通過面、②材の中心、③雌実下や内側の3点を結ぶように、筋状に約200mm間隔で塗布してください(図c・d参照)。

注) 実部分への接着剤の塗布は厳禁です。一箇所大きな隙間を引き起こす原因となるためご注意ください(図e参照)。



(4) 釘の打ち込み

- 釘(ステーブルまたはスクリーネイル)は、板厚の2.5~3倍の長さを目安に使用してください。
- 釘(ステーブルまたはスクリーネイル)は、材の中央方向へ向かって斜め45°に打ち込んでください。下地を通して胴縁・野縁に打ち込んでください(P.256 図D参照)。

(5) 周囲の納め方

- パネリングの中方向の両端は、柱や間柱などに密着させないで必ず5~10mm程度のクリアランスを設け、額縁や廻り縁などで隠してください。また、張り終える最後の一枚は、1週間程度期間をおいてからの施工が理想です。なお、腰壁上部を、珪藻土や漆喰など塗り壁にする場合は、湿気によるパネリングの反りや膨張が起こりやすいため、特に注意が必要です。
- 鴨居・窓枠・ドア枠などは、パネリングと密着させずに若干のクリアランスを設けて施工してください。
- パネリングの各板の張り込み、及び隣接する出入隅はきつくせず、若干のクリアランスを設けて施工してください。
- 換気扇・点検口・ダクト・ダウンライト等を取り付ける際は、取り付け部と下地の補強を十分に行ってください。